

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
基準日	3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人及び特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取り扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「 特別口座の場合 」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

■株主様のご住所・お名前等使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。

このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

第74期 株主通信 [報告書]

平成26年4月1日～平成27年3月31日



基本理念 Philosophy

- 1 わが社は、世界水準の製品を創り出すことにより、持続的な成長を遂げ、永遠の存在を目指す。
- 2 わが社は、有意義な製品とサービスを提供することにより社会に貢献する。
- 3 わが社は、国際社会に共生する一員であることを意識するとともに、法規等を遵守し、環境保全に努力する。
- 4 わが社は、すべての関係者・機関に調和のとれた満足を提供することを目標とする。
- 5 わが社は、互いの価値を認め合う人々の集団であり、熱意をもって向上・革新へ挑戦していく。

Our Products

平河ヒューテックの製品



株主の皆様へ To Our Shareholders

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り心より感謝申し上げます。第74期の株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当社グループを取り巻くエレクトロニクス業界におきましては、ビッグデータ関連市場やエネルギー産業関連市場の需要が引き続き拡大基調で推移しました。

このような事業環境下において、当社グループでは、第74期の年度方針として、『新たな発想でイノベーションを加速しよう』を掲げ、経営資源をグローバルな観点で統合しグループの最適化を行い、常に新たな価値を発想し、より優れた独自性の高い製品やサービスをスピード感をもって提供すべく取り組んでまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高は247億75百万円(前連結会計年度比6.3%増)となりました。売上高の増加及びコスト削減等により、営業利益は11億99百万円(同53.9%増)となりました。円安の進展により為替差益が発生し、経常利益は14億8百万円(同73.4%増)となりました。当期純利益は前連結会計年度に計上しました特別利益はなくなりましたが、営業利益の増加等により9億41百万円(同39.1%増)となりました。

次期の見通しにつきましては、金融動向、原油価格の変動及び中国やその他新興国経済の先行き等について不安定要因が残るものの、全体としては緩やかな回復が見込まれております。

このような事業環境の下、当社グループでは、第75期の年度方針として、『最後までやり抜き、必ず実現しよう』を掲げ、新市場の攻略、新事業の追求及び新製品の創造に対して、迅速な意思決定とグループ全体の効率性を上げ、市場の開拓に努めてまいります。

役員・従業員一同、一層の努力をしてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月



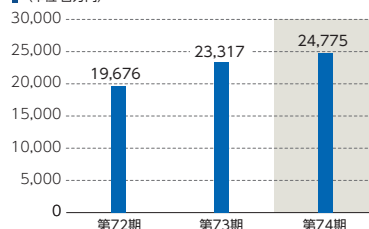
代表取締役 社長

目黒 裕次

連結財務ハイライト Financial Highlights

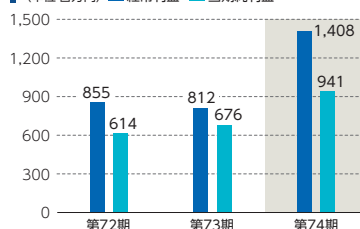
売上高

(単位:百万円)



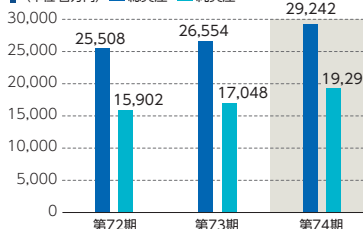
経常利益／当期純利益

(単位:百万円) ■ 経常利益 ■ 当期純利益



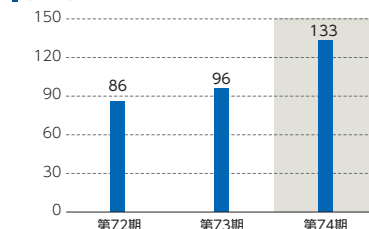
総資産／純資産

(単位:百万円) ■ 総資産 ■ 純資産



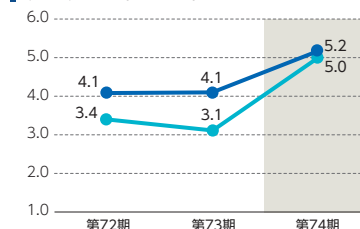
1株当たりの当期純利益

(単位:円)



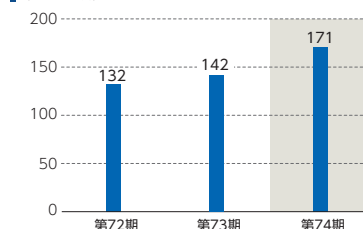
ROA／ROE

(単位:%) ● ROA ● ROE



研究開発費

(単位:百万円)



連結貸借対照表

(単位:百万円)		
科 目	当 期 (平成27年3月31日現在)	前 期 (平成26年3月31日現在)
(資 産 の 部)		
流動資産	17,080	15,329
① 現金及び預金	3,907	3,321
① 受取手形及び売掛金	7,477	7,041
① たな卸資産	4,795	4,282
その他	900	683
固定資産	12,161	11,225
② 有形固定資産	9,517	9,073
無形固定資産	170	137
投資その他の資産	2,473	2,014
資産合計	29,242	26,554

(単位:百万円)		
科 目	当 期 (平成27年3月31日現在)	前 期 (平成26年3月31日現在)
(負 債 の 部)		
③ 流動負債	5,964	5,481
④ 固定負債	3,983	4,024
負債合計	9,948	9,505
(純 資 産 の 部)		
株主資本	17,049	16,267
資本金	1,555	1,555
資本剰余金	1,459	1,459
利益剰余金	16,375	15,592
自己株式	△2,339	△2,339
⑤ その他の包括利益累計額	2,244	781
純資産合計	19,294	17,048
負債、純資産合計	29,242	26,554

POINT①	流動資産の主な増加は、「現金及び預金」の増加5億85百万円、「受取手形及び売掛金」の増加4億35百万円、「たな卸資産」のうちの「原材料及び貯蔵品」の増加3億25百万円であります。	POINT④	固定負債の主な減少は、「長期借入金」の減少73百万円であります。
POINT②	固定資産の主な増加は、「投資有価証券」の増加5億68百万円、「機械装置及び運搬具」の増加4億17百万円であります。	POINT⑤	その他の包括利益累計額の主な増加は、「為替換算調整勘定」の増加12億65百万円であります。
POINT③	流動負債の主な増加は、「支払手形及び買掛金」の増加2億23百万円、「短期借入金」の増加1億35百万円であります。	POINT⑥	売上高増加の主な要因は、ビッグデータ関連市場やエネルギー産業関連市場の需要が拡大したことにより、半導体検査装置用ケーブル、デジタル機器用ケーブル、エネルギー産業関連ケーブル等の売上が増加したことによるものです。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)		
科 目	当 期 (平成26年4月 1日から 平成27年3月31日まで)	前 期 (平成25年4月 1日から 平成26年3月31日まで)
⑥ 売上高	24,775	23,317
売上原価	20,041	19,064
売上総利益	4,733	4,252
販売費及び一般管理費	3,534	3,473
営業利益	1,199	779
営業外収益	246	79
営業外費用	37	47
経常利益	1,408	812
特別利益	3	297
特別損失	37	0
税金等調整前当期純利益	1,374	1,108
法人税、住民税及び事業税	410	375
法人税等調整額	27	56
少数株主損益調整前当期純利益	937	676
少数株主損失(△)	△3	△0
当期純利益	941	676

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)		
科 目	当 期 (平成26年4月 1日から 平成27年3月31日まで)	前 期 (平成25年4月 1日から 平成26年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,505	92
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,264	△271
財務活動によるキャッシュ・フロー	△109	△141
現金及び現金同等物に係る換算差額	449	281
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	579	△40
現金及び現金同等物の期首残高	3,324	3,057
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	307
現金及び現金同等物の期末残高	3,904	3,324

連結株主資本等変動計算書

	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資 本 剰余金	利 益 剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	1,555	1,459	15,592	△2,339	16,267	167	－	681	△67	781	－	17,048
会計方針の変更による 累積的影響額			△4		△4							△4
会計方針の変更を反映した 当期首残高	1,555	1,459	15,588	△2,339	16,263	167	－	681	△67	781	－	17,044
当期変動額												
剰余金の配当			△154		△154							△154
当期純利益			941		941							941
自己株式の取得				△0	△0							△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						161	9	1,265	26	1,463	－	1,463
当期変動額合計	－	－	786	△0	786	161	9	1,265	26	1,463	－	2,250
当期末残高	1,555	1,459	16,375	△2,339	17,049	329	9	1,946	△40	2,244	－	19,294

「センシング」・「M2M」市場への対応

1、様々な場面で活用されるセンシング技術・M2M

ビッグデータの利活用が広がりを見せるなか、人間以外の機器、社会・環境等に対する各種センシングを全世界的な規模で実現し、新たなビジネスモデルを構築しようという動きが活発になっております。

センシング、M2M及びIoTがその代表例であります。

工場機械・産業機器、プラント等設備の異常監視の分野においては、省人化、効率化及び収率向上の目的で、交通分野では自動運転が話題の車両本体での利活用にとどまらず、道路等においても渋滞緩和や老朽化等インフラのマネジメントに利活用されております。

その他、医療、エネルギー、科学の分野でもその活用が広がっております。最近においては、これまでエレクトロニクス産業と距離があった農業の分野においても、光、温度及び湿度のデータを収集し、生物、生体の条件を全部ビッグデータで管理し生産性の向上や出荷時期を最適化するなど利活用の裾野は現在も拡大しつつあります。

2、高品質・高性能なケーブルを開発

センシングといわれるセンサーを使った情報の取得及びM2M、またIoTと、あらゆるものがインターネットに接続されて2020年には500億ものデバイスがつながる見込みです。これにより収集されたビッグデータを解析して商品化することが、新しい大きなビジネスチャンスとなっております。

当社はこの大きなビジネスチャンスを成果に結びつけるべく、当社が注力している大容量のデータをパラツキが少なくかつ高速に伝送できる高品質、高性能なケーブルの開発に取り組んでまいります。

将来に結びつく成果も出始めております。電気自動車用充電スタンド、スマートパーキング、蓄電池及び電気の検針業務の自動化や電気使用量の見え方を可能にする電力量計のスマートメーター等新しいインフラ市場の分野において成果が具現化してまいりました。

3、「マシンビジョン」市場へもいち早く対応

また、新たな取り組みとしてマシンビジョンという市場へチャレンジしております。

マシンビジョンとは主に製造業では対象物の自動検査やプロセス管理、ロボット誘導などに用いられるセンシング技術で、製造上の品質保証や生産効率の向上に有効とされています。マシンビジョンに用いられる産業用カメラは、アナログCCDカメラからデジタルビデオカメラに世代交代が進んでおり、そのインタフェースには様々な規格が乱立しています。伝送方式も様々なため、使用されるケーブルやコネクタも各々特長をもったものとなっています。当社はこの需要を取り込むために、いち早く各規格に対応できるケーブルを開発し、販売しております。このマーケットの世界市場の拡大に対し当社は日本マーケットを足がかりとし、世界の工場となり人件費が上昇している中国マーケットにも複数回の展示会出展等を通じアプローチしております。今後は欧米等も含めさらにグローバルに展開してまいります。

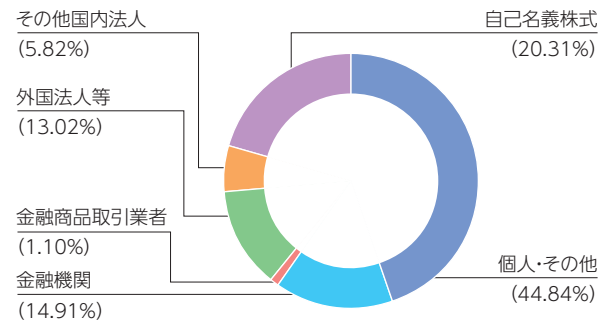
このように、当社グループは今後もこれまでの基盤製品を事業のベースとし、新たなトレンドに新たな価値を創出することにより持続的な成長を実現してまいります。



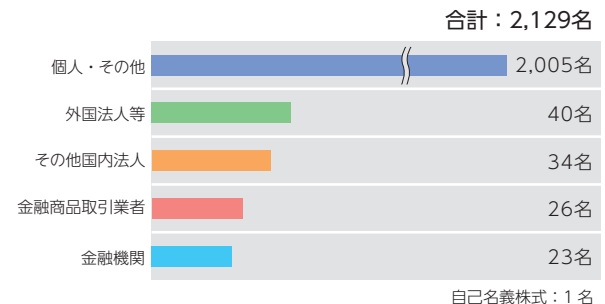
株式の状況

発行可能株式総数	27,000,000株
発行済株式総数	8,813,900株
単元株式数	100株
株主数	2,129名

所有者別株式分布状況



所有者別株主数



会社概要

商号	平河ヒューテック株式会社 HIRAKAWA HEWTECH CORP.
設立	昭和23年9月
資本金	15億5,507万760円
従業員数	2,646名(連) 368名(単)

役員氏名 (平成27年6月26日現在)

ヒューテックグループ代表取締役会長	隅田和夫
代表取締役社長	目黒裕次
取締役	宇梶大
社外取締役	湯佐富治
社外取締役	沼田恵
常勤監査役	武藤昇
社外監査役	阿部博
社外監査役	江部安弘
執行役員	木村正紀
執行役員	椎名祐一郎
執行役員	石戸隆雄

ヒューテックグループ

海外拠点	国内拠点
● 連結子会社(製造) HIKAM ELECTRONICA DE MEXICO, S.A. DE C.V. HIKAM TECNOLOGIA DE SINALOA, S.A. DE C.V. 福泰克(深圳)电子有限公司 HEWTECH (THAILAND) CO., LTD. HEWTECH PHILIPPINES CORP. ● 連結子会社(販売) HIKAM AMERICA, INC. 上海河拓克貿易有限公司 福泰克香港有限公司 台湾福泰克股份有限公司 HEWTECH (BANGKOK) CO., LTD. ● 連結子会社(製造・販売) 福泰克(連雲港)电子有限公司	● 本社 ● 営業拠点 (営業所) 営業本部 東北営業所 北関東営業所 中部営業所 関西営業所 ● 開発・生産 (工場・事業所) 古河事業所 桃生工場 福島工場 新潟工場 ● 連結子会社 (製造・販売) 四国電線株式会社 株式会社新潟電子